

平成29年度スポーツ推進計画評価

基本目標	主要施策	施策	取組状況（平成29年度）	評価
生涯スポーツの推進	子どものスポーツ活動の推進	幼児期からの体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児期からの運動習慣づけのため「運動遊び教室」の実施 18回 延べ1,282人 ○幼少期からの運動する子と、しない子の2極化してきている。教室参加者以外の運動能力低下がみられると保育園や小学校からも意見があった。他の部署との連携を図っていく。 ○年中児（年少児）を対象に、保育園、幼稚園を巡回する運動遊び教室を実施。各園2回 	A
		幼稚園、保育園、小中学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○JFA心のプロジェクト「夢の教室」を市内5小学校で開催（全学校で開催する事となった。ただし、八坂・美麻小学校は人数が少ないので対象学年を2学年として、隔年開催）5年生（6年生）210人 ○Jリーガーやプロスポーツ選手OBが夢先生として「夢を持つこと」や「仲間と協力すること」の大切さを伝える。 ○松本山雅事業 キャリア教育:2小学校 121人 巡回指導:保育園 8園 172人 ○市内2小学校のキャンプ活動で、カヌー体験受け入れ 	A
		親子ふれあいスポーツ教室の開催	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの体力づくりと家族そろってのスポーツへの参加 親子ふれあいスポーツ教室 6回 延べ265人 ○各学校へチラシの配布を依頼する等、広報活動を行った。 	A
		少年スポーツクラブ活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> ○市から、スポーツクラブへ補助を行っている。補助金を増額（事務局:体育協会） ○活動の場として市内体育施設を優先的に、無償で貸し出している。 	B
		スポーツ少年団活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> ○市から、少年団へ補助を行っている。（事務局:体育協会） ○補助金を増額し、スポーツ選手の講演会を開催 ○活動の場として市内体育施設を無償で貸し出している。 	B
スポーツに親しむ機会の充実	誰もが気軽に参加できる新しいスポーツの導入と普及	未経験者、初心者向けのスポーツ教室の開催	<ul style="list-style-type: none"> ○初心者を対象とした「小学生スキー教室」の実施 2回 120人 ○ウォーキング、フラダンス等、新たに成人を対象とした初心者向けの教室を開催した。 ○新たにボルダリング教室を初心者向けで開催した。 	A
		各種スポーツ大会・イベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> ○ニュースポーツ教室の実施、用具の無償貸し出し 「ワンバウンドふらばーるバレー教室」の実施 3回 延べ40人 「ママさんフリータイム広場」でキックベース、ミニテニス、スラックラインを実施 ○イベント等でのニュースポーツ指導 北小学校・東小学校緑日や公民館イベント等でのニュースポーツ指導 ○用具を無償で借りられる事を知らない人が多いので、リストを作成して総合体育館へ掲示 	B
		アウトドアスポーツの普及	<ul style="list-style-type: none"> ○市民スポーツ祭の開催 春季(ゴルフ)・夏季(多種目)・冬季(スキー、スケート) ○新規のスポーツイベントの開催について検討を行う。 ○市民が気軽にスポーツに取り組めるきっかけづくりとしてスポフェスおおまちを開催した。 ○バドミントンS/Jリーグ大町大会の開催 ○北アルプスバドミントンOP大会(国内初のジュニア国際大会)の開催 	A
		スポーツの楽しさの伝達	<ul style="list-style-type: none"> ○市民登山 1泊2日 10人参加 ○小学生スキー教室開催 ○子どもを対象とした木崎湖でのカヌー・ヨット教室の実施 26回 延べ715人 ○ウインドサーフィン教室を数年ぶりに2日間開催。 ○成人を対象としたカヌー体験教室を実施 	B
			<ul style="list-style-type: none"> (再掲) ○JFA心のプロジェクト「夢の教室」を市内5小学校で開催（全学校で開催する事となった。ただし、八坂・美麻小学校は人数が少ないので対象学年を2学年として、隔年開催）Jリーガーやプロスポーツ選手OBが夢先生として「夢を持つこと」や「仲間と協力すること」の大切さを伝える。 ○松本山雅FCホームタウンデーでのPR、サッカー教室等 ○バドミントンS/Jリーグ大町大会の開催 ○北アルプスバドミントンOP大会(国内初のジュニア国際大会)の開催 ○スポフェスおおまちの開催 	A

基本目標	主要施策	施策	取組状況（平成29年度）	評価
生涯スポーツの推進	スポーツによる健康、体力づくりの推進	スポーツによる健康、体力づくりに向けた意識啓発	<ul style="list-style-type: none"> ○健康教室の開催。教室を通じて、体力づくり等に関する知識を指導 ○体育課：トレーニング講座、福祉課：高齢者の体力測定、市民課：はつらつ健康塾 ○福祉課・保健センター・大町病院・体育課等関係各所で連携をとりながら教室を開催し、各部署が得意とする分野を担当して、各年代に対応していく。 ○パーソナルトレーナーによるトレーニング講座を開催。（怠りがちな身体の後背面や柔軟性を中心とした、家でも継続してできる教室を年間通して開催。24回 延べ人数480人。） 	B
		体力測定の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉課にて、高齢者を対象とした体力測定等を実施し、データを共有 ○健康・体力づくりへの意識を高めるため、他部局と連携して行っていく。また、スポーツ推進委員会主催教室を開催しようとした下、体力測定のみでは参加者数が集まらなかったため、今後は他のイベント等と合同で開催する予定。 	B
		スポーツ教室やイベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ推進委員や体育課による各種スポーツ教室の開催 ○ママさんフリータイム広場、運動遊び教室、バランスボール教室、スラックライン教室、カヌー体験教室、少年海洋教室、海洋性スポーツ体験教室、親子ふれあいスポーツ教室、小学生スキー教室、エンジョイスキー教室、ワンバウンドふらばーるパレー教室、パーソナルトレーナーによるトレーニング講座 ○今後も教室の固定化せずに、新たな教室も開催していく。 	A
		運動機能維持向上トレーニングの実施	<ul style="list-style-type: none"> ○総合体育館トレーニングルーム内にサイクリングマシンを増設。 ○トレーニングルームの利用者数が増えているので、トレーニング講座の中で、機器を使ったトレーニング方法も指導してもらった。 	B
		青壮年期のスポーツ活動	<ul style="list-style-type: none"> ○市民登山、スキー、大人を対象としたカヌー体験等の教室の実施 ○今後、青壮年期の方がさらに参加しやすくなるように、内容を変更・充実させていく。また、市民登山などについては、20から40代の方々へも参加を周知していく。 	B
		障がい者のスポーツ推進	<ul style="list-style-type: none"> ○大北地区障がい者運動会への会場提供 ○要介護者に、地域包括センターでのトレーニング指導を紹介 ○地域包括センターと連携を密にして、情報共有する方策を検討する。 ○施設のバリアフリー化について、改善の検討を行う。 ○サンスポーツまつもとと連携し障がい者のスポーツ支援等 	C
		スポーツ推進員の活動充実	<ul style="list-style-type: none"> ○主催教室について協議を行い、要望が多い物については回数を増やしたり改善している。今後もより良い教室開催に向けて協議を密に行っていく。 ○新規教室開催に伴い、既存の教室について精査しニーズに合わせていく。 	A
スポーツに関する情報提供の充実	スポーツに関する情報提供の充実	スポーツイベントに関する情報提供の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○市ホームページからイベント等の周知を行った。 ○市、体育協会主催行事以外の情報周知についても、今後強化していく。 ○スポーツ推進委員会でフェイスブックを作成し、教室等の様子を載せている。 	B
		スポーツ団体情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○総合体育館内掲示板に、団員募集等のチラシを掲示 ○体育課に団体情報の照会依頼があった際は、該当する団体や協会に確認を行ってから紹介している。 	B
		健康体操のCATVでの放映	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ推進委員による健康体操を放送している。 ○福祉課で、介護予防健康体操「おおまびよん体操」を作ったので、活用を図っていく。また、市CATVと協議して、健康体操の更新を検討してもらう事とした。 	B
		スポーツ推進員活動情報の周知	<ul style="list-style-type: none"> ○各種教室のCATVでの放映 ○ホームページ等を使用し、ニュースポーツの情報提供に努める。 ○ニュースポーツの普及のため、総合体育館で所有する器具をリスト化して、掲示。 ○スポーツ推進委員会でフェイスブックを作成し、教室等の様子を載せている。 	B
		メディアを活用したスポーツ中継	<ul style="list-style-type: none"> ○CATVへ各教室の取材依頼を行い、放映している。 ○各報道機関へ情報提供を行っている。 ○インターネットを使用した映像の放映について、今後協議していく。 	B
		大町市リーダーバンク情報の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習課で、制度の整理を行い、リーダー登録の確認作業が完了した。 ○スポーツ・レクリエーションのリーダー登録は16人有り、周知を行っていくと共に、新たな登録者を探していく。 	B
体育協会との連携	体育協会との連携	体育協会の組織強化	<ul style="list-style-type: none"> ○体育協会への加盟について、働きかけを行っている。今後、加入促進に向けて、加入のメリットなどを整理していく。また、少年団・スポーツクラブの在り方も併せて整理する必要がある。 ○競技団体の新規加入に課題があり、募集や周知方法について協議していく。 	C
		事務局体制の検討	<ul style="list-style-type: none"> ○アルプスマラソン事務局の在り方も含めて、体育協会事務局の在り方等を協議してもらった。 ○今後も協議を進めていく。 	B
		市体育課と体育協会との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ○随時、連絡を取り合い、それぞれの行事で協力している。 ○情報共有のため、定期的な打ち合わせ会議を開催する。 	B

基本目標	主要施策	施策	取組状況（平成29年度）	評価
生涯スポーツの推進	保健、福祉部局との連携	保健センター、福祉部局との連携	○前年まで開催していた教室は、講師の関係もあり大学ではなく、大町病院に協力してもらい新たな教室を開催。冬のウォーキング塾 10回 延べ250人	B
		健康増進について、近隣大学との連携	○同上 ○大町市・信州大学共同研究事業「大町市定住促進研究支援」で、骨粗鬆症の予防や啓発活動を通して、健康なまちづくりを行う。	B
競技スポーツの育成と指導者の育成	組織の育成と技術力の向上	スポーツ団体への支援	○市から体育協会へ補助を行い、登録加盟団体の活動等の取りまとめを行っている。総会等を通じて、各団体の意向を聞き取り、今後の支援を検討していく。 ○新たな指導者育成方法について、今後も検討していく。	B
		競技大会参加への支援	○体育協会加盟団体が主催する大会について、一定の支援を行っている。 ○体育協会と連携し、各団体の有力な選手を把握し、表彰した選手や種目について、市民へ広く認知してもらえるように周知をしていく。 ○スポーツ振興補助金により全国大会等への参加に対し助成を実施	B
		スポーツ団体指導者の養成	○クラブマネージャー育成研修会等の情報提供を行っているが、指導者の高齢化や仕事の都合により、人材不足である。 ○スポーツ振興補助金により指導者の資格取得等に対する助成を実施	B
	指導者養成の推進	指導者の資質向上に向けた研修	○県体育協会等主催の研修会に関する情報の周知を行っている。 ○競技毎に、審判講習会等があるため、全体的な研修会への参加率の向上を目指す ○スポーツ少年団等に行ったアンケート結果を基に、検討していく。	C
		スポーツ指導者の養成	○スポーツリーダーの資格取得に関する情報の提供を行っている。 ○リーダーの資格取得を希望する人材を探す。 ○福祉課と連携をとり、高齢者スポーツの指導者を育成していく。 ○スポーツ振興補助金により指導者の資格取得等に対する助成を実施	B
スポーツ大会の開催と交流の促進	大会誘致やトップアスリートとの交流	○おおまびよんカップ復興支援女子サッカー大会の開催 県内外から18チーム 360人が参加 ○バドミントンS/Jリーグ大町大会の開催 ○北アルプスバドミントンOP大会(国内初のジュニア国際大会)の開催	B	
スポーツを通じたコミュニティづくり	総合型地域スポーツクラブの育成支援	総合型地域スポーツクラブの育成環境の整備	○中学校社会体育活動の受け皿として、各中学校にスポーツクラブを設置し運営していくこととする。 学校業務改善検討委員会の中でクラブ化について取組	C
		広報活動の推進	○体育協会発行の機関誌や、周知用のチラシを配布している。 ○総合型スポーツクラブの認知度が低いと、周知方法等を工夫する。	C
		設立、運営に必要な人材の育成	○県で開催している養成研修の情報の提供を行っている。 ○市からの補助金を増額し、クラブ運営や研修等への補助を行う。	C
		総合型スポーツクラブ運営に対する支援	○運営に対して補助金を継続して交付するとともに、金額を増額し安定的運営のための研修等に活用してもらう。	B
	スポーツを通じた交流の充実	各種大会、イベントの充実	○市民スポーツ祭の分館対抗での開催を可能な限り継続していく。 ○各小学校のPTA活動や、地区でのイベントへスポーツ推進委員を派遣して支援を行った。(各小学校縁日、公民館スポーツ教室等) ○各地区公民館を単位とした教室開催については、各地区の担当者を交えて開催していく。今年度も各公民館主催の教室を開催した。 ○市民が気軽にスポーツに取り組めるきっかけづくりとしてスポフェスおおまちを開催した。	B
			市民スポーツ祭、地区運動会の在り方の検討	○市ホームページやCATV等を活用して参加者増を図っており、引き続き様々な媒体を使用して情報発信に努める。 ○地区運動会は全地区で開催 ○長年継続してきた分館対抗は今後も可能な限り続けていくが、今後参加者の減少が続くようであれば、市民参加のスポーツ型レクリエーション大会の様な位置付けを検討する。 ○スポーツ振興補助金により地域におけるスポーツ大会の実施に係る助成を実施
		スポーツボランティア活動の推進	「見る」「支える」層の拡大	○市ホームページを利用して、スポーツ大会等情報の周知を行った。 ○引き続き、ボランティアについて周知等を行っていく。
	活動の場の確保	○市主催の教室で、保育士を紹介してもらい、講師をお願いしている。 ○登録制では無いので、人員確保が容易でないことがある。	B	
大町アルプスマラソンの支援ボランティアの充実	○従来どおり、各団体へ直接依頼をして募集を行っている。	A		

基本目標	主要施策	施策	取組状況（平成29年度）	評価
スポーツを通じたコミュニティづくり	地域特性を生かしたスポーツ振興	自然環境の活用	○市民登山(10人参加)、スキー・スノーボード教室(4回、延べ32人)、カヌー・ヨット教室(26回、延べ715人)等を開催	B
		高地トレーニング合宿の誘致	○現在、大会等の予定を確定した後、空いている日程で合宿を受け入れている。今後、県が整備する合宿サイトへ掲載すると共に、高地トレーニングを提唱していく。 ○スキー場等民間スポーツ施設の紹介 ○オリンピック・パラリンピック事前合宿において、全ての施設が国際基準の要件を満たしていないため、基礎トレーニングの受け入れを主に誘致していく。	B
		滞在型観光としてのスポーツ活動	○スキー場や、山小屋関係者との関係を強化していく。	D
		近隣市町村との連携	○大北縦断駅伝競走大会、大北スポーツ競技会の開催。 ○スポーツを通じての滞在型観光の推進について、連携・協議を行いながら進めていく。 ○小谷村、松川村のカヌー体験の受け入れを行った。 ○白馬村や松川村へスポーツ推進委員の講師派遣を行った。	A
		自然環境の活用・充実	○B&G海洋センター艇庫の活動を周知し、昨年度より活動人数が増加した。今後も施設整理を行いさらに人数を増やしていく。 ○トレッキングのコース情報の提供について、観光課と連携して情報を提供していく。 ○仁科三湖での活動の提唱について、方法等を検討していく。	B
スポーツ施設の整備と有効活用	スポーツ施設の整備・充実	施設の役割に応じた整備・充実	○年間を通して各施設の維持管理を行っている。 総合体育館改修工事、第2新屋内運動場整備事業、陸上競技場第4種公認コース更新に伴う整備、総合体育館バスケットゴール、エアロバイクの更新整備 ○学校体育施設の開放に伴い備品等の再整備を実施、引き続き整備を行う。	B
		施設の必要性に応じた整備・充実と見直し	○総合体育館設置の移動式バスケットゴール、エアロバイクが老朽化しており、利用者の安全性や利便性確保のため更新した。(バスケットゴールはTOTO補助金活用) ○施設の経年劣化に伴い、全施設を対象とした総合計画の策定が必要。策定に向けて現状の調査を引き続き行う。	B
		大町市公共施設利用予約システムの活用	○随時、運用方法の修正等を行いながら運用している。 (細かいシステム修正を加えながらの運用、数年後に大きな修正を行う予定) ○大町市の運用に対応していない部分があるため、どの様に修正・対応していくか検討	B
	スポーツ施設の有効活用	使用状況等の把握、管理	○利用状況の低い施設について、今後の計画を策定中 ○各地区の担当者等を交えて、今後の計画を策定していく。	B
施設整備の検討		○新屋内運動場建設業務発注、平成29年9月末完成予定。 ○各競技団体等の要望に可能な限り対応できるよう、柔軟に対応する。今年度、スポーツ少年団やスポーツクラブへ要望等の聞き取りアンケートを行った。次年度以降の施策に反映していく。	B	